

26年2月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 1月20日～ 26年2月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

| 品目 | | 26/2月 | 3月 | 4月 |
|----------|-------|--------|--------|--------|
| 伐採動向 | スギ | △ 41.7 | △ 16.7 | 0.0 |
| | ヒノキ | △ 16.7 | 0.0 | △ 16.7 |
| | カラマツ | 16.7 | 16.7 | 33.3 |
| | エゾ・トド | 0.0 | 50.0 | 50.0 |
| 出荷・販売動向 | スギ | △ 33.3 | △ 33.3 | △ 8.3 |
| | ヒノキ | 0.0 | 0.0 | △ 16.7 |
| | カラマツ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | エゾ・トド | 50.0 | 50.0 | 0.0 |
| 手持立木在庫動向 | スギ | 0.0 | 50.0 | 37.5 |
| | ヒノキ | 50.0 | 0.0 | △ 25.0 |
| | カラマツ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | エゾ・トド | △ 50.0 | 0.0 | 0.0 |

スギの伐採は2,3月の減少が、4月には横ばいに、ヒノキは2月の減少が3月の横ばいを経て4月には減少に、カラマツは増加傾向で推移、トドマツは2月の横ばいが3,4月には増加に。スギの出荷・販売は減少傾向で推移、ヒノキは2,3月の横ばいが4月には減少に、カラマツは横ばいで推移、トドマツは2,3月の増加が4月には横ばいに。スギの手持立木在庫は、2月の横ばいが、2,3月には増加に、ヒノキは2月の増加が4月に向け減少に、カラマツは増加傾向で推移、トドマツは2月の減少が3,4月には横ばいに。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・スギ及びヒノキの主伐中心に間伐も少々。ヒノキ材値上がりのため手持ちのヒノキ山の皆伐を2,3月に行う。
- ・スギ及びカラマツは原木不足続く、作業員の不足が目立つ。
- ・カラマツは立木処分少なく立木在庫も減少、トドマツの出材・販売は需要あるので増加、入荷少なく立木在庫はやや減少。

(出材・販売動向)

- ・スギ及びヒノキ間伐材は年度末、降雪による出材減。
- ・原木不足気味、スギ及びカラマツの並材の不足が目立、単価は高値維持。

(手持ち立木在庫)

- ・スギ及びカラマツの立木は前月に引き続き強気買入れ、手持ちが不足気味。